

後期基本計画 骨子案について

〈第 3 回審議会意見〉

- ・ 広報について現在のやり方でどのくらい市民に情報が伝わっているのかチェックできないか。
- ・ 紙媒体とネットの両方で活用できないか。
- ・ 総合振興計画は概要版が市民に配られていると思うが概要版だけでは内容がわからない。例えば、概要版を読んで子育ての取組についてもっと知りたいとなったときに、直接浜田市のホームページにアクセスしたら詳細がわかるといったような仕組みにして、紙媒体とネットを両方活用できないか。総合振興計画を市民に知ってもらおうとするためにはそういう工夫が必要。
- ・ 土地利用のゾーン分けが実際に住んでいる人の思いや実情に沿っていない。
- ・ 出生数が 300 を切っているが、どうやったら増えるかということが議論されていない。
- ・ SDGs の項目について、マークを載せているだけでは、市民が理解することはなかなか難しい。一つ一つのマークに細かい注釈がついているが、マークを載せるだけですべての人がそれを理解できるかということ無理なような気がするので、予め注釈をつけたほうがよい。
- ・ 2040 年に出生数を 265 人というのは厳しいのではないか。
- ・ 冊子の配布だけではなく、危機感を市民も共通認識として持たなければ実現は難しい。
- ・ 地元就職者を増やすとあるが就職先がなくなってきており、例として市職員の給与減をし、市職員数を増させることで働き口を増やせるのでは。
- ・ 人口グラフの中に線が多く、簡素化したほうが市民の方に分かりやすい。
- ・ 合計特殊出生率を実数の出生数に変えたということは、現状を見ての判断であり良いと思う。
- ・ 大綱はよくまとまっている。

〈第 3 回審議会後追加意見〉

- ・ やはり一般市民からの意見をもっと反映するために、ネットなどで見られるようにしておくことが良いと思います。
- ・ 計画書を見慣れていないので、もう少しグラフやイラスト（図など）があった方が見やすいのではないかと思います。
- ・ 第 3 回審議会で意見が多く出ていたので、その意見などを反映させればほぼ完成に近づくのではないかと思います。
- ・ ②浜田市の自然動態の動向③浜田市の社会動態の動向について、出生数だけでなく、子供の数や婚姻数、婚姻率・未婚率、有効求人倍率、産業別就業人口、転入・転出者数、I・U ターン者数の推移などの、現状と課題がより具体的に感じられるような資料を入れてはどうか。
- ・ 「島根創生計画」と人口ビジョンの目標についての記述は、行政目線で説明されていて、一般市民には大変わかりにくいと思う。前提条件と試算結果についての表も、複雑で難しく感じる。

後期基本計画 骨子案について

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・SDGSの達成に向けた取り組みについて、国としてもまだ新しい目標であるため、市民にもまだ馴染みがないと思うので、17の目標のカラーのアイコンを載せるだけでなくもっとわかりやすく表示・説明し、浜田市の目ざす方向性がSDGsと一致しているという一文で済ますのではなく、なぜ結びつけるかという根拠をしっかりと説明する必要があると思う。
- ・文章の中にも色を付けることで見やすくなると感じた。また、文字フォントや大きさを変えることでも見やすくなる、見てもらえると思った。
- ・部門別計画のSDGs目標を書かないといけないようなスタンスに思えた。もっと絵や目標の中身を書くように思えた。
- ・「国の総合戦略」であることをもっとわかりやすく標記されたいと思います。(浜田市戦略図と見分けがつくように)
- ・総合戦略の基本方向(総合振興計画 施策大綱)にそれぞれページを打ってわかりやすくしてください。
- ・人口推移について、「なるべく減少を緩やかにしたい、そのためにどうするか」ということは書かれているが、「人口減少になると何が困るのか。」ということにあまり触れられていない。1,000人減でどういった行政サービスが出来なくなるといった具体的な例があると身近な問題として考えやすいのでは。
- ・まちづくりの大綱V、VI、VIIの空欄は不要だと思う。
- ・第2次総合振興計画では、人口・出生数・社会増減数が基本指標となっているとの事ですが、これに関する用語自体が専門的で分かりにくい点があります。

行政等にふだん関わりのない一般市民にとっては、キーワード自体がイメージしにくいところがありますので、それぞれに用語解説等の※があれば、より優しいのかなと思いました。(部門別計画書にはところどころありました。)

解説が欲しいキーワードとしては、

「社会増減数」(2ページ、表1)

「自然動態」(5ページ)

「合計特殊出生率」(5ページ)

後期基本計画 骨子案について

〈第3回審議会後追加意見〉

- 11ページの③浜田市の人口推計の箇所の説明されている基本数値の設定が、5年ごとの国勢調査ではなく、住民基本台帳とし、より実数に近い毎年の動きが把握できるように見直しをされたというのは、大きな点だと思います。これを含め、3回審議会で説明されたポイント4点（出生数の出し方、若者に絞った社会増減数の設定など）は、そのまま「ポイント4点」として表記いただく方が、数値を読む時に把握しやすいのかなと思います。合わせて、この説明文（12ページ）内に、「社会移動数」という言葉が出てきますが、「社会増減数」と同義なのでしょうか？
- 全体的な意見としてですが、総合振興計画書に簡略した「概要版」があるのは大変良いことだと思います。せっかくなら思い切って「中学生でも読める」ところまで簡易に落とし込んでみてはと思いました。もしくは、概要版の「子供たち版」としてさらに平易なものがあれば、当然市民も分かりやすいですし、将来浜田を担う子供たちへのメッセージにもなるかと思います。ふるさと学習やふるさと教育の教材にもなるかも知れませんし、何より一人でも多くの市民に読んでもらえるものにすべきかなと感じます。
- 第5節表題の下に、ここだけSDGsマークの一部があるが何故？

全部門について

〈第3回審議会意見〉

- それぞれの分野に具体的な目標や施策を盛り込むべき。表現が耳障りはいいが、具体性が見えてこないため、今のままだと市民の方にはわかりにくい。
- 浜田らしさというのはなんなのか、またそれがどこに入っているのか。例えば、この総合振興計画を隣の江津市に持って行っても通用するのでは。浜田らしさというのが部門ごとの検討をとおして明確に示されていない。
- 計画は「満遍なく」ではなく「メリハリをつけた」施策、事業とした方が良い。
- U・Iターンの人口の増加は、各部門で具体化に掲げるべきではないか。

(例) 産業経済部門：アフターコロナを見据えて、都会地や海外との交流を増やす取組

〈第3回審議会後追加意見〉

- グラフを併記する場合は、一目見てわかりやすいものにしてほしい。
- 文章の表現について、統一をおねがいします。(だ、です、ます、本市、当市などバラバラなので)
- サブタイトルを付けたのはとても良いと思いますが、総合戦略に係る施策の欄、各基本目標が長いので、もう少しコンパクトにできたらいいと思います。
- 思い切って施策の順番を替える、各部門別の方針の順番も替える
人口増や定住のための教育を重点目標にするのならば、それらのために行う施策を最初に持ってきたらいいと思います。
例えば 現行：産業経済→健康福祉→教育文化→環境→生活基盤→防災・防犯→地域振興
⇒ 健康福祉→教育文化→地域振興→産業経済→環境→生活基盤→防災・防犯
(各部門でも、人口増や定住に関わる項目を上位にもってくる)
- 【代表的な目標】は、「施策の目標」と「事業・取組の目標」とがあるように思われます。なかなか達成は難しいかもしれませんが、ほんとうは「施策の目標」を【代表的な目標】とすべきなのでしょう。
※ 例えば、「水産業の振興」については「水揚量」や「新規漁業就業者数」。
- 文章が長く感じるので、コンパクトにまとめる、文章で説明を羅列されるより、箇条書きも加えてわかりやすい標記にしてほしい。
(若い世代は文章を読むのが苦手な理解力はありません)
- 各現状と課題のSDGsマーク内の言葉が小さく潰れて認識できない。市民誰もが理解できる工夫が必要と考える。

全部門について

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・部門別の下位計画を明示する必要はないか？
- ・前期計画から変化の生じた項目については、説明して欲しい。(例：事業終了、優先順位の変更、項目整理など)

I 産業経済部門について

〈第3回審議会意見〉

- ・お魚市場からアクアス等の観光施設同士とのアクセスが悪い。バス運行以外にも道路標識など、設備面にお互いの観光施設がその他の観光施設に興味を持ってもらえるような連携など工夫が必要。
- ・製造業の振興の代表的な目標に「ふるさと寄付額の確保」があるがはたしてそれが代表的な目標になり得るのか。
- ・水産業について。地元で魚を買って食べようと思っても魚が高い。地元の人が楽に行ける場所でなければいけない。とるだけでなく、作りだす産業も必要。
- ・どの部門でも言えるが「代表的な目標」は一過性のものであり、最終的に目指す目標がある。最終目標をしっかりと意識することが必要である。
(例：漁船団の維持、稚魚の放流→漁獲量の増加)
- ・第一次産業（漁業、農業、林業）の雇用を増やすために、行政の手厚いサポートが必要である。
- ・フレックスタイムの導入や子育てと両立しやすい環境などの働きやすい環境づくりが必要である。
- ・第一次産業全般において売り方や作り方など若い人が参入しやすい仕組みが必要ではないか。
- ・小さい観光地（外ノ浦や今福線など）は、観光地として受入体制が整っていない。
- ・具体的な売上目標があると理解しやすい。
- ・浜田一押しの特産がない。浜田ブランドやデザイン開発に補助金を。
- ・市内店舗で売られている「赤てん」で市外産の赤てんらしき商品が並んでいるのに違和感がある。

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・雇用について高校卒業後、浜田市内に就職しても2年～3年後には自立できるお金を貯めて県外に出る子が私の周りには多いですが、何か地元に残るメリットがないのかなと思います。
- ・6. 企業立地による雇用の促進について、新たな企業の誘致だけでなく、既存の地元企業の雇用促進への行政の支援が必要だと強く思う。地元企業の魅力の発信を支援するだけでは到底解決できそうにない。現状では、「浜田には働きたい仕事がない」「収入が少ない・不安定」「仕事を選べる都市へ出て働きたい」と思う人がほとんどである。既存の企業の労働条件や職場環境をもっと改善していくための行政目標は設定できないだろうかと思う。
- ・合同企業説明会などの情報を使って、就職活動ができた。しかし、コロナの影響があり個々の企業での説明会が目立っているように思った。

I 産業経済部門について

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・港湾整備の主な事業・取組は、ほとんど国事業、県事業とあるが、国や県の計画はどれ位把握しているのか。把握したうえでの目標値 67.0%なのか。
- ・新規学卒地元就職者の目標値を 200 人としているが、普通科以外の高校でも卒業生の半数は進学しているのに、そもそも、そんなに学生・生徒はいないのでは。
- ・「水産業の振興」(1 ページ) が総合戦略の基本目標 1 に該当するのであれば、ほんとうは、担い手確保対策の目標は「新規漁業就業者数」であるべきでしょう。
- ・「農林業の振興」の「農地の利活用と集落ぐるみでの地域農業の推進」の【代表的な目標】の「広域連携への取組」は、これだけではわかりにくいので、もう少し説明が必要かと思われます。
- ・「観光・交流の推進」(15 ページ) が総合戦略の基本目標 1 に該当するのであれば、そして、SDGs に「雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する」ターゲットが設定されているので、少なくとも、「基本方針」において雇用創出に言及すべきではないでしょうか。できれば、「持続可能」というキーワードもほしいところです。
- ・耕作放棄地の拡大や山林の荒廃が進んでいます。荒廃が進むと美観も悪いですし鳥獣被害が拡大します。そして何よりも農地の貯水力や山林の保水力が減退し、昨今の異常気象と相まって大規模土砂災害を引き起こす恐れがあります。防災問題と絡めて農業・林業の振興策や保護政策を計画に盛り込む必要があると思います。
- ・外ノ浦に限らず、各地の歴史文化遺産や観光資源の景観保全・修景整備に万全を期すよう計画に盛り込んでほしい。(教育文化部門、環境部門に再掲)

Ⅱ 健康福祉部門について

〈第3回審議会意見〉

- ・がん検診の受診者アップのためにも地域のつながりを大切にすべき。誘い合っでの受診に繋がるのでは。
- ・健康寿命の延伸の取組について、がん検診の受診していただく取組が必要ではないか。
- ・『子どもを安心して産み育てる環境づくり』のサブタイトル「子育てしやすいまち 浜田」を「子育てしたくなるまち 浜田」の方が良いのでは。
- ・出生数を増やすためには、子どもを産み育てることの楽しみを親に教える、育てやすい環境づくり（職場の環境）への取組、ふるさとで育てることの魅力を全面に出すなどの取組が必要ではないか。

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・「在宅医療連携推進事業」が消えているのは何故か？

*これは、一つの例。前期計画から変化の生じた項目については、説明して欲しい。（例：事業終了、優先順位の変更、項目整理など）（全部門に再掲）

Ⅲ 教育文化部門について

〈第3回審議会意見〉

- ・『学校教育の充実』に関して、目標がわかりにくい。抽象的で、数字が多くなったら何が良かったのか、数字が悪くなったら何が足りなかったのか、具体的な数字がわかりにくい。積み上げができるような指標にしてはどうか。教育というものは数値化しにくい、現実的な目標を入れてはどうか。
- ・生きる力とは何か。耳障りはいいが、具体的に何を指しているのか。特に浜田で生きるということは何を指しているのか。ふるさと郷育もこの項目に入れてもいいのではないか。
- ・家庭教育について、取組を具体的に書いてほしい。「HOOP!」について何をやっているのか、ここに書かれていることだけでは理解できないので、具体的にどういうことをやっているのか、それをやるからこういう利点がある等記載してほしい。
- ・「自分にはいいところがあると思っている子どもの割合の増加」の目標値72.9%は低い。8割を目標値にしてはどうか。
- ・出生数を増やすためには、ふるさとで育てることの魅力を中心に広めるなどの取組が必要ではないか。

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・はまだ父子共育（ともいく）についての説明がないので、簡単な説明があってもいいと思います。
- ・総合スポーツ大会参加者の目標値が現状の5倍以上だが、アフターコロナの状況を考えると1大会あたりの参加者数を増やす訳にはいかないと、大会数を増やすのか。どういう試算で9,600人になったのか。
- ・年1回の芸術文化祭のみならず、市民文化の拠点「浜田市文化協会」に十分な支援が必要と考える。文化継承する上で重要な役割を担っていると思うがどうか。
- ・主な事業としての「市内各資料館の管理運営」について。市内各資料館の利用者が減っていると聞く。管理運営面で利用者数推移から活用目標を立ててはどうか。ふるさと郷育として学校利用を促したり、市民が住んでる浜田を知り、郷土を発信できる場の重要性を感じている。
- ・まちづくりセンターを拠点とした社会教育の推進ですが、まちづくりセンターの運営が今までのような自治会長の延長ではなく、社会活動への旺盛な意欲を持った人材の登用や育成をやっていくということをしつかりと計画に盛り込んでほしい。町づくりは人づくり。早急な対応をしないと「協働のまちづくり」は絵に描いた餅となる恐れがある。
- ・「地域の歴史文化を保存し……歴史文化に親しめる環境整備と人づくりを推進する」とありますが、日本遺産『外ノ浦』の景観破壊が進んでいます。入り江に突き出て美しかった金刀比羅神社が無粋なコンクリート護岸で囲われている。どうしても護岸が必要なら石積み等の自然素材で築造するか、北前船寄港らしく雁木積みにする。ついでに常夜灯を設けるとか。

Ⅲ 教育文化部門について

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・はまだっ子共育（ともいく）についての説明がないので、簡単な説明があってもいいと思います。
- ・外ノ浦に限らず、各地の歴史文化遺産や観光資源の景観保全・修景整備に万全を期すよう計画に盛り込んでほしい。（産業経済部門、環境部門に再掲）
- ・教育文化部門については、グループ発表にもあったが、表記に具体性を欠く。（例：「生きる力」って何？）また、「主な事業・取組」と「代表的な目標」に関連性が感じられない。また、「代表的な目標」そのもの増減が何の指標になるのか理解に苦しむ。前期計画と齟齬を生じない範囲で工夫ができないか？
- ・「浜田市スポーツ施設再配置・整備計画」の最終形はどの様になっているのか？

Ⅳ 環境部門について

〈第3回審議会意見〉

- ・再生可能エネルギーの導入促進について、代表的な目標で「公共施設における太陽光発電設備の新規設置数の増加」とあるが、自治体がやるのか、企業がやるのか、どちらが主体的にやるのかわからなかった。
- ・再生可能エネルギーを導入する自治体に来年度から交付金が出るという話もあるが、浜田市自身の導入促進はどのようにやっていくのか。行政がやらないといけないこと、民間に委託してもいいことをもう少し明確に分けてもいいのでは。
- ・農業放棄地の利用について、若い力が生かす施策が必要ではないか。景観を守ることに繋がる。

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・外ノ浦に限らず、各地の歴史文化遺産や観光資源の景観保全・修景整備に万全を期すよう計画に盛り込んでほしい。（教育文化部門に再掲）とにかく、空き家と空き地だらけの現在の浜田市に若い人達や観光客が魅力を感じるとは思えません。美しい町づくりのためには住民の協力が不可欠ですが、町づくりや景観保全に行政がもっと想像力を働かせることと知恵を絞っていく事が必要かと思います。
- ・再生可能エネルギーに偏っている。今後5年間に限って言えば再生可能エネルギーによる脱炭素よりも省エネの推進により少しでも炭酸ガスの排出を減らすことが、環境にとって必要なことと思います。従い、主要施策の中に、省エネを入れるべきと思います。

V 生活基盤部門について

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・デジタルトランスフォーメーション（DX）の用語が理解しにくい。市民に伝えるなら用語解説が必要と感じる。
- ・コンパクトはかえって間違ったニュアンスを与えてしまうのではないか（コンパクト…縮小・不便）。別の言い換えができないか。
- ・「・・・市政運営を行うため、「浜田市情報化推進計画」を策定しました。」とある。スケジュールを睨んでことと思うが、第1回の会議を終えたばかりの状況で、この表記はいかがなものか？

VI 防災・防犯・消防部門について

〈第3回審議会意見〉

- ・自主防災組織について、組織率が挙がっているが、自主防災等は実際に動いてみて役に立たないと意味がないので組織率だけみても意味がない。実際に運営・メンテナンスがきちんと機能しているかなど、数字で表しにくい実態の把握が大切。
- ・福祉避難所はどこの避難所に行っても最低限のものがそろっていることを明記されている必要があるし、すべての福祉避難所で一定のものをそろえておく必要があると感じている。

第3回審議会後追加意見〉

- ・ページ中ほどに「防災無線の更新を主体とした次期防災情報システム」とありますが、市民生活に最も関わりの深い項目なので、全体像を図示するなどの工夫が必要では？

Ⅶ 地域振興部門について

〈第3回審議会意見〉

- ・地域の魅力を発信し続けることが必要ではないか。
- ・「浜田応援団員数の増加」の目標値 200 人は低い。最低でも 300 人、更に 400 人へと増やしていくべきではないか。
- ・関係人口＝定住人口へ定着させることが人口を増やす取組として重要ではないか。
- ・UI ターン者が浜田市に住む理由や、浜田市のいいところを発信することが重要だと思う。

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・新入生浜田探索ツアーに参加したことがある。紺屋町などの知らなかった店や学生が行っている店を知ることができ良かった。地域政策学部ができ、浜田市を知る機会は増加するチャンスだと思う。
- ・95 ページ「1. UI ターン定住支援制度の充実」内の代表的な目標の目標値設定が、相談件数：327 件→408 件、UI ターン者数の増加：209 人→840 人とありますが、具体的にどのようにしてこれだけの増加を図ろうとしているのか？見込みとしての目標設定なのか？イメージしにくいです。
説明文には冒頭、「都市圏の若者を中心とした受入支援」に取り組むとありますが、なぜ若者なのか？その根拠と定義の説明がもう少し欲しいと思いました
- ・96 ページ「4. 関係人口と協働による課題解決の推進」で、面白そうな応援活動といたので、もう少し具体的な説明が欲しいです。「関係人口創出拡大事業」は単に事業名なのでしょうが、全くイメージできません。浜田応援団員が現在 125 人いるとの事ですが、どういった人達なのでしょう？私を含め一般庶民のレベルはそれ自体の認知がないかも…と思うのですが。
- ・「地区まちづくり推進委員会設立推移」の表がある。単なる数字の折れ線グラフなら、個々の設立経緯や性質を含めた現状の把握を見誤ることになるがどうか？
- ・「基本方針」1 行目に「・・・条例の理念及び協働のまちづくり推進計画にもとづき、市民と市による協働のまちづくりを推進します。」とあるが、現在 (8/31) 3 回の会議を終えた段階での「協働のまちづくり検討部会」のありようでは「協働のまちづくり」を標榜することは叶わない。無茶苦茶なスケジュールと進め方は、とても市民を向いているものとは思えない。一番大切な「信頼関係」を著しく損なうことで、由々しき問題と捉えているがどうか？
- ・4 協働の仕組みづくり 1 行目に「・・・地域協議会を開催します。」とあるが、「設置します。(もしくは「置きます。」の誤りではないか【条例第 10 条関係】」？

地域別計画について

〈第3回審議会意見〉

- ・弥栄地域計画のサブタイトル「むらづくり」は意図的なものか。

〈第3回審議会後追加意見〉

- ・弥栄地域だけが「むらづくり」とされていることについて、市町村標記を合併時に弥栄の町民が希望して「村」ではなく「町」と選択したのに、「むら」としたことは意味があるのか。市町村標記との整合性はとらないのか。
まちづくり、むらづくり ではない表現をされたらどうですか。
- ・浜田地域だけSDGs目標が3つの理由を尋ねる。金城・旭・弥栄・三隅地域は各6つある。